

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づいた行動理念と行動目標を作成している。スタッフルーム内に掲示し、意識に繋げるため、朝礼時に唱和している。	「入居したい施設づくり」「心地良さと安心感のある施設づくり」に向けて、12項目に及ぶ接遇ルールの実践を通して、事業所理念の意識化と具現化に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所を機に地域主導で跡田介護コミュニティの里づくり協議会が発足。今年度はコロナ感染対策のため、イベント開催はできていない。	コロナ禍のため、従来行ってきた地域との日常的な交流やおつき合いは減少していますが、今後に向けての地域との交流や連携の在り方について模索していることが確認できました。	地域の一員として、事業所が地域とどのようにおつき合いをしていくのか、その交流や連携の在り方についての今後の取り組みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策のため、地域での交流イベント開催は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動等を報告し、参加者それぞれの知見から意見や助言をいただき、サービス向上に努めている。今年度はコロナ感染対策のため、資料配布とした。	コロナ禍のため、文書(資料)を配布して、施設の活動状況等を伝えていきます。その際、利用者の状況報告に加え、感染防止対策、事故報告、職員の研修状況等について意見交換を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や中津市GH連絡会、研修会など情報交換する機会がある。判断に迷うような案件があれば、都度、報告・連絡・相談を行い、適切な判断のうえでサービス提供できるように努めている。	市町村とは、運営推進会議やリモート方式による連絡会、研修会等を通して意見交換を行っています。また、感染対策、事故報告、コロナ禍における職員体制等について相談・助言を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会や意見交換を通じて、身体拘束のないケアに努めている。入居者に束縛感や圧迫感を抱かせないようなケアや環境づくりに努めている。	レポート形式による研修の一環として、身体拘束に係る研修を行い、身体拘束をしないケアの実現に努めています。また、入居者に束縛感や圧迫感を抱かせないケアや眠りSCAN等の(見守り)支援センサーを活用した見守りケアに取り組んでいることが確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフルームに高齢者虐待防止を含む権利擁護指針を掲示し、職員が確認できるようにしている。又、注意すべき事柄については朝礼、職員会議等で喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市が推進する市民後見人の養成講座を修了し、適切な助言や支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、入居前に運営方針及び目的、費用等について説明を行い、理解(同意)が得られた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望をしやすいような関係づくりに努めている。年1回満足度アンケートを実施し、集計結果をフィードバックしている。いただいた意見や要望は職員間で共有し運営に活かしている。	家族との面談が制限される中、外部評価に係る家族アンケートの外に、年1回、14項目にわたる家族の満足度アンケートを実施し、集計結果をフィードバックし、その後の運営に反映させていることが確認できました。	利用者の生活状況や事業所の活動状況が正確に伝わっていない面もあるので、今後は文書による情報交換を行う等、相互理解を深めて行く取り組みが求められます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回は職員と面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。また、職員会議等で意見交換できる場を設け、運営に繋げている。	毎月実施される職員会議や年1回行われる管理者との面談において提案された意見、要望を協議し、その後の運営に繋げていることが記録により確認できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はそれぞれスキルアップや長所が発揮されるような年間目標を設定しており、法人は職員が資格取得等、向上心をもって就労できるようにバックアップ体制を整えている。		SSS
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、自己評価及び第三者評価を実施し職員のスキル把握に努めている。また、グループ全体の研修会を毎月行い、知識や技術、プロとしての心構えを育む取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの管理者が集う連絡会で情報交換や意見交換を行う機会がある。又、市内GHの職員を対象とした見学・合同研修を通じて、資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を相談者に聴取すると共に、本人と面談し円滑な施設入居・関係でスタートできるようにアセスメント作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を聴取すると共に、本人の生活に対する要望を聞き取り、ケアプランに反映させるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の折、本人の状態や要望等から他のサービス利用や資源の活用が望ましいと判断した場合には、情報提供や必要な助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること・関心あること・得意なことを理解し、共助の関係であることを念頭に柔軟な対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時職員の立ち合い(必要時)や電話で随時報告を行い、本人と家族の橋渡しを行っている。緊急時は家族へ報告や相談を行い、意向確認をしながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を講じた上での面会や長年通う医療機関への通院等、馴染みある人との交流や習慣が途切れないような環境や支援を心掛けている。	コロナ禍の中、ガラス越しではありますが、家族等と会話のできる面談を実現する等、馴染みの関係の継続と利用者の「家族とお話できた」という満足に繋がる支援に努めていることが分かりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おおまかな1日の流れがあり、ティータイムやレクリエーションの参加を促し、入居者が集う時間を設けている。職員も輪に入り、入居者の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要な助言や支援はできること伝え、気軽に相談いただけるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい関係づくりに努め、本心を汲み取れるように努めている。また、目配りや気づきを大切に、気持ちに添った支援を心掛けている。	管理者、介護、看護スタッフ等、全ての職員がそれぞれの立場で連携し、利用者との話しやすい関係づくりに努めており、日々の会話や表情から利用者の意向や思いに添った支援を心がけていることが確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りや情報提供により、生活歴を確認し、入居後も本人との会話や家族、知人の面会時に話を伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や職員間での意見交換を密に行い、日々の状態や変化を観察し、早期に状態の把握、情報の共有ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を記録に残し、本人や家族の要望や状態変化があれば、担当職員によるモニタリングや他職員からの情報や意見を反映し、介護計画を作成している。	入居時の本人、家族等の要望に加え、日々の会話や表情などから得られた利用者の意向や思い、気づきを状況把握シートに記録・共有し、介護計画の作成及び見直しに繋げていることが諸記録から確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日を通しての様子を個別に記録し、記録の中に気づき欄を設けて、気になる事柄やケアへのヒント等があれば引き継ぎ、実践や介護計画の見直しに反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の希望に沿えるような支援を心掛け、自宅のような心地良い生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当GHIは自然や四季の移ろいを身近に感じられる環境下であり、季節ごとの催しや土地柄を活かした生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一優先にかかりつけ医を決めている。受診時は職員が状態や経過報告を行い、適切に医療提供がされるように努めている。状況に応じて医師や家族に報告・相談をしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診が行われています。原則として、職員が付添い、医師への状況報告、医師からの指示を家族、職員が共有するなど、適切な医療が継続して受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化に注意しながら観察している。また、健康上の気づきがあれば、主治医への相談や受診等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供を行うと共に、随時面会にて状態や経過の把握に努めている。又、MSWと連絡を取り、入院による不安や退院支援が滞りなく対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応できる状態については入居時に説明し、同意の上で利用を開始している。意向に応じて可能な限り責任者と相談しながら方針を共有し、本人にとって望ましい支援を心掛けている。	制度としての「看取り介護」は採用していませんが、家族等の希望により、協力医療機関との連携と眠りSCAN等の見守り支援システムの効果的な活用等により、終末期の濃密な介護が実践されていることが確認できました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が確認しやすい場所に設置している。数名の職員は救急救命の講習を受講しており、必要なスキルを身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練実施。地域の自主防災組織に加わり、地域の防災避難訓練にも参加した。今年度は感染対策のため地域の防災訓練は行われなかった。	地域の防災訓練は実施されませんでした。施設独自の防災避難訓練が年2回行われています。特に、リスクの高い土砂災害について、地域、行政との緊密な協力体制が構築されていることが確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として一人ひとりの誇りやプライドに配慮した言葉選びを心掛けている。接遇ルール12項をもって不適切な接遇にならないよう取り組んでいる。	職員の言葉遣いや態度が利用者にとってどうかを常に自覚し、失礼にならないような接し方を心がけています。接遇ルール12項を職員の見やすい所(例えば、トイレなど)に掲示し、その意識づけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が遠慮せずに、自身の思いや希望を表現できるよう受容した態度で、声掛けや傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	おおまかな日課(体操や入浴)はあるが、入居者の気分やペースを第一に、状況や状態に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容・美容師が来て、本人の希望を聞きながら散髪している。誕生日月には生花(アレンジメント)をプレゼントしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自尊心を傷つけないように配慮しながら、役割として担える範囲を声かけや職員と一緒にやっている。また、一人ひとりの身体機能にあわせて食べやすいように工夫している。	法人に所属する栄養士の献立に沿った自前の食事が提供されています。毎日曜日には、職員と一緒に手作りおやつを作る等、無理強いをしない範囲でお手伝いをお願いしていることが分かりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を個別に記録し、食事量の減少があれば、状態に合わせた補食等に対応している。水分量の少ない方には、本人の好物等を提供し、低栄養・脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、介助が必要な人にはブラッシング・うがい・義歯洗浄を行なっている。義歯は夕食後に義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやリズムを把握し、定期的にタイミングをみながら声かけやトイレ誘導を行っている。安易なおむつ使用は控え、気持ちよく過ごせる排泄対応を目標として取り組んでいる。	排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握し、状況を見ながら、声かけやトイレ誘導を行っています。安易なおむつ使用は極力避け、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かす機会を設けるとともに、水分補給やオヤツにヨーグルトを取り入れ、自然排便に繋がるよう取り組んでいる。希望者は牛乳を購入し、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を予定してお風呂場を準備している。入浴日は午前・午後行われ、気分を伺いながら入浴のお誘いをしている。無理強いにならないように留意している。	ユニット毎に入浴日を決め、週2回の入浴を行っています。入浴は午前午後行われ、無理強いにならないようゆっくりとした時間が設定されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の表情や体調に気を配り、状態に応じて休息を促すようにしている。夜間眠れない時は安心感が得られ穏やかに過ごせるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服薬と薬効を纏めた表を作成している。状態や服薬は記録に残し、状態に変化あればかかりつけ医に報告・相談し、対応に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや好きなことができるような環境をつくり、充実した時間を過ごせるように支援している。嗜好品も周りに配慮したうえで提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染対策のため外出の機会は大幅に減少している。本人の受診以外、季節や天候によって戸外散歩やドライブの実施はある。	感染防止のため、日常的な外出支援は大幅に減少していますが、戸外散歩や初詣、八面山ドライブ等、出来得る限りの利用者のストレス軽減に向けた取り組みが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金は職員が管理しているが、入居者の希望や管理能力、本人が安心感を得るために所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便り(年賀状や暑中見舞い)を恒例の季節行事として行い、人との関わりや習慣、楽しみが自宅同様に継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は窓から季節の移ろいを眺められる開放的な造りになっている。廊下には昔懐かしい写真や花等を飾り、施設内所々が心地よい居場所になれるようにしている。	開放的な施設空間の中、廊下には、季節の移ろいを感じられる花や飾りつけ、昔懐かしい写真を掲示するなど、居心地よく過ごせるような工夫がされています。衣類たたみなどしている利用者の笑顔がとても印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要時は快適に過ごせるように座席替えや模様替えを行い、一人ひとりが過ごしやすい場所になるように努めてる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家具や寝具など、利用者の使い慣れたものなど持ち込んでいただき、レイアウトも本人が快適に、安全に過ごせるように配置、整備している。	居室は広めにとられており、可能な限り、家庭で使用されていた馴染みの家具等の持ち込みを推奨しており、本人が居心地よく過ごせるような配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造平屋造りで、適所に手すりを設置する等、安全への配慮を行っている。また、利便性を高めるばかりではなく、本人が使い慣れ、認識しやすいものは、あえて利用者の視点で考え、取り入れている。		